

国道36号白老拡幅は、令和2年3月26日(木)4車線開通！

～ ウポポイ(民族共生象徴空間)の年間100万人来場者達成に向けて、交通アクセスの改善を図る ～

一般国道36号白老拡幅は、観光シーズンにおける渋滞の解消により地域振興に貢献するとともに、アイヌ文化の復興等の拠点へのアクセス改善、国際拠点港湾間の連結強化、円滑で安全な物流の確保による企業活動の支援を目的とした、延長4.8kmの4車線拡幅事業です。

平成29年度に事業化し、交通量の多い国道36号で、交通の切り回しを何度も行いながら、2年という短い期間で橋の架替、道路改良・舗装工事を進め、令和2年4月24日のウポポイ(民族共生象徴空間)開設に先立ち、令和2年3月26日に4車線開通しました。

工事の実施状況



限られた期間内での工事であり、また、現道交通を確保しなければならないなど厳しい条件での工事でしたが、現場の手戻りを発生させないため、問題点については早めに解決するよう心掛け工事を進めてきました。



用地の取得

白老拡幅に係る用地の取得は、工事の期間を考慮すると平成30年度には完了している必要があり、そのためには測量から物件調査、用地協議、契約までをわずか1年半で行なわなければなりません。

圧倒的なマンパワー不足を補うために、用地協議の一部を外注化したり、全道から応援部隊を集めることで300名を超える関係者対応を行いました。

結果として、面積ベースで96.4%という大きな成果を上げることができました。



白老町象徴空間周辺整備推進課との打合せ

物件移転後の現地確認



広報から

報道機関を対象とした「ウポポイ」の 現地説明会取材してきました。



広報担当の
糸谷 上席
総務専門官

令和元年12月19日、報道機関を対象にしたウポポイの現地説明会には、テレビ・新聞社合わせて22社・50名以上が参加し、多くのテレビや新聞などで紹介されました。

このときに内部を初めて見ましたが、大きな窓から見える自然豊かな景色が本当に素晴らしく、4月のオープンを今から楽しみにしています！



室蘭開発建設部でも「ウポポイ」を紹介

室蘭開発建設部では庁舎の玄関ホールに「ウポポイ」のPRコーナーを設置しています。

ポスターの掲示やパンフレットを置いたり、テレビモニターを設置しPR動画を視聴できるようにしています。4月24日オープンに向けて、多くの来館者が訪れるように応援しています。



「ウポポイ」PRコーナー



PR動画

民族共生象徴空間(愛称:ウポポイ)とは

ウポポイは、アイヌ文化復興等のナショナルセンターです。ウポポイ(民族共生象徴空間)は、2020年4月24日、北海道白老町(しらおいちょう)ポロト湖畔に誕生するアイヌ文化復興・創造の拠点です。愛称「ウポポイ」は、アイヌ語で「(おおぜいで)歌うこと」を意味します。

【ウポポイの主要施設】

●国立アイヌ民族博物館

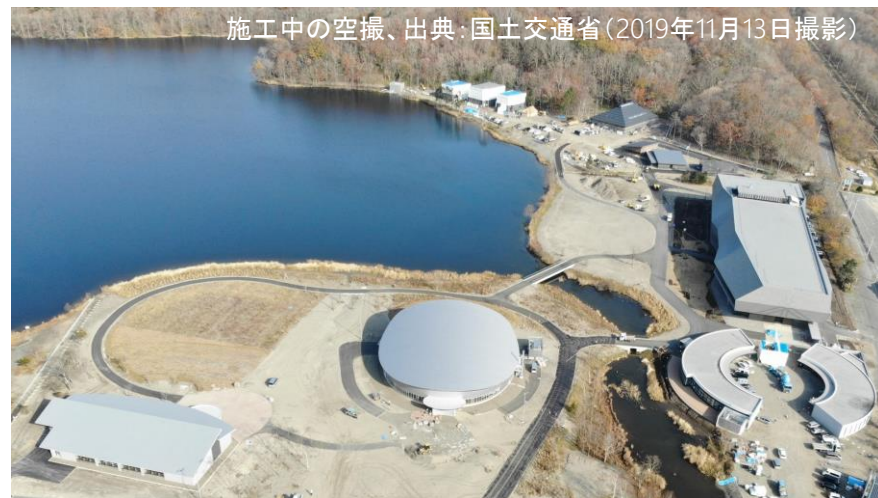
先住民族アイヌを主題とした日本初の国立博物館。アイヌ民族の視点で語る多彩な展示で歴史や文化を紹介します。

●国立民族共生公園

体験型フィールドミュージアムとして、古式舞踊の公演や多様な体験プログラムを通じて、アイヌ文化を体感できます。

●慰霊施設

アイヌの方々による尊厳ある慰霊を実現するための施設として、ポロト湖東側の高台に整備されます。



ウポポイについてもっと詳しく知りたい方は・・・

「ウポポイ」民族共生象徴空間のホームページ

<https://ainu-upopoy.jp/>

北海道総合開発計画

～人が輝く地域社会の形成～

● アイヌの歴史、文化等に関する国民各層の幅広い理解を促進するとともに、将来へ向けたアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展を図るため、アイヌ文化の復興等に関するナショナルセンターとなる「民族共生の象徴となる空間」の整備及び管理運営に関する取組を推進して、…年間来場者数100万人を目指します。